

散乱光フィルムの効果確認試験

JAえんゆう

花木 慶喜



①オニオンホット 3月30日撮影



②オニオンホット 3月30日撮影



③カゲナシ5 3月30日撮影



④カゲナシ5 3月30日撮影



⑤オニオンホット 裂けた箇所

試験目的

カゲナシ5の効果確認

試験作物
及び品種

玉ねぎ(北もみじ2000)

試験資材
及び数量(規格)

カゲナシ5(0.075mm×460cm×55m) 2本

慣行資材

オニオンホット、(ノーポリ)

栽培方法

播種日
2月25日

資材使用期間

2月~4月

試験区面積

91反

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

作業性はオニオンホットに優位性があった。

カゲナシ5は商品規格が0.075mmまでしか無いため、0.05mmのオニオンホットと比較すると重く、トンネルの開閉作業が大変だった。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

生育状況は同等であった。

カゲナシ5、オニオンホット共に屋間の温度がノーポリより1~2℃高くなり、芽出しも2~3日早く、生育が良かった。

カゲナシ5、オニオンホット間では明確な生育差は見受けられなかった。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【問題点】：カゲナシ5、オニオンホット共に散乱光効果のために、梨地になっているが、カゲナシ5の方が梨地が強く外からトンネル内の温度計が見づらいという難点があった。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

資材の強度はカゲナシ5が優れていた。

オニオンホットは厚さが薄いためか、裂けやすかった。

トンネルに使ったビニールは、3年目には、オニオンエースの糊がシルバーポルトウに付着するのを防止するためにべたがけにかませて使用しているが、オニオンホットは使用できるか心配である。

(5)促成・抑制効果について

同等であった。

(6)保温効果について

同等であった。

モニター感想

カゲナシ5、オニオンホット共にノーポリと比較してトンネル内温度が高く、生育状況が良いため、価格は高いが、普及していくと思う。

カゲナシ5は製品として問題はないが、現状では重く、作業が大変なため選ぶならオニオンホットを選択すると思う。

JA担当者の感想(資材課 大嶋係長)

当地区では玉ねぎ育苗のトンネル資材としてはノーポリが使われてきていたが、近年農PO系の需要が高まってきている。

価格は農PO系の方が高いため、生育がその分優れ、収量に繋がっているためと思われる。

本試験では商品規格上の問題で、慣行区に分があったように思われたが、試験品も優れているという認識を持っているため、今後の改善を期待したい。

今後の使用について

改良して欲しい。

厚さが0.075mmで重く、作業性が悪いため改善してほしい。

将来希望する資材について

安価で保温効果の高いトンネル資材。

1 露地フィルム

2 散乱光フィルム

3 製地フィルム

4 マルチ

5 不織布

6 育苗資材

7 防虫ネット

8 除菌資材

9 ICT機器

10 その他